



TBS テレビ、TBS ラジオ&コミュニケーションズ 2011 年度合同入社式

4月1日午前10時から、TBS テレビ、TBS ラジオ&コミュニケーションズの2011年度合同入社式が行われ、TBS テレビ石原社長、TBSR&C 加藤社長ほか幹部が出席、新入社員の門出を祝福しました。

■ 両社の新入社員数

TBS テレビ 25名

TBSR&C 3名

計 28名

■ 石原社長訓話

皆さん、入社おめでとうございます。多様な才能、清新な感性を持った皆さんを、TBSの新しい仲間として迎えることができ、社員一同大変嬉しく思っています。本来であれば、皆さんの門出にあたり、もう少し晴れやかな式典をすべきところですが、未曾有の大災害が起き、多くの子供たちの授業再開もままならない状況ですので、簡素なものとしさせていただきました。皆さんの中にも被災された方がいると聞いていますが、まず、被災された方々に心からお見舞いを申し上げたいと思います。

3月11日、地震が発生した直後から、貴方たちの先輩達は不眠不休で、津波情報や被害状況、そして原発事故を取材し情報を送りました。公共の電波を預かる報道機関として、その社会的な使命を果たす為に、社員の皆さんは懸命の努力を続けています。そして、今、全国や海外にも支援の輪が大きく広がっています。このように放送事業というものは、非常に社会的に公共性の高い事業です。皆さんも、今日からその社会的使命を背負う一員となったわけですから、こうしたことをしっかりと自覚していただきたいと思います。

今回の大災害で、多くの国民の皆様が悲惨な状況に直面しましたが、一方で他人の痛みを共に感じ、人と人の絆の大事さを、改めて認識されたのではないかと思います。TBSでは、早速「絆プロジェクト」をスタートさせ、被災された方々の心の傷を少しでも癒し、元気を出してもらえる番組の放送や、募金活動、そして被災地にラジオを送ることなども始めています。折しもTBSは今年、創業60周年の大きな節目の年を迎えています。「人の心を大切にし、ものづくりの原点に立ち戻ろう」という活動をスタートさせていますが、今回の「絆プロジェクト」もその一環です。現場の皆さんが英知を結集し、視聴者の皆さんに共感していただける番組が放送されることを期待しています。

ところで、放送業界を取り巻く環境は非常に厳しいものがあります。日本経済そのものがかつての勢いを失い、広告費全体も徐々に減少し続けています。そしてデジタル化という技術革新により、ビジネス環境は大きく変化しています。皆さんはネット時代に順応しているので良くお分かりでしょうが、スマートフォンやiPad等、デバイスも非常に多様化しつつあります。しかしながら、如何にメディアが多様化しても、重要なのはコンテンツの内容そのものです。視聴者の皆様の信頼に応え、共感を得る番組があれば、なにも恐れる事はありません。

現在、優良なコンテンツを中心に多様化したメディアを利用し、収入源の多角的拡大を図ることに積極的に取り組んでいます。TBSは映画「おくりびと」で日本史上初のアカデミー賞を受賞しましたし、60周年企画として5夜連続で放送した『99年の愛～JAPANESE

AMERICANS〜』も大変高い評価をいただきました。また、国内、海外で 33 もの賞をいただいたドラマ『JIN－仁－』も、この 4 月から完結編がスタートします。こうした優れたコンテンツを生み出す人材とそのチームこそが、TBS の最大の財産であることは言うまでもありません。皆さんも今日からそのチームに加わっていただくわけですが、自己研鑽を怠らず、常に世の中の人々の声を真摯に受け止め、人の心を大切にするという、ものづくりの原点を決して忘れないでいただきたいと思います。

最後に、未曾有の大災害に遭われた方々、そして救援活動や、原発の修復作業に当たっている方々は、今、懸命に生き、必死の努力をされておられます。人生は一瞬一瞬、一日一日の積み重ねです。個人の人生においても、仕事に対しても「一瞬一瞬、一日一日を一生懸命生きる」と言う言葉を、皆さんの入社にあたり、はなむけとして贈りたいと思います。共に元気を出して頑張りましょう。

■ 加藤社長訓話

皆さん、入社おめでとうございます。テレビ 25 名、ラジオ 3 名、合わせて 28 名の新しい仲間と今日こうして出会えたことを大変嬉しく思っています。今日から皆さんは TBS グループの立派な一員です。これから先、公私に亘って充実した幸せな人生を歩まれることを心からお祈りいたします。とはいえ、社会に出て仕事をするということは決して容易なことではありません。学生時代とは全く異なる責任そして自己管理が求められます。ましてテレビ・ラジオというメディアに関わる仕事となれば、求められるレベルは極めて高くなるということを是非肝に銘じておいていただきたいと思います。

テレビもラジオも大変厳しい時代を迎えています。そんな中、3 月 11 日に東日本大震災が発生しました。もしかしたら皆さんのご親族や知り合いの中にも被災された方がいらっしゃるかもしれませんが、改めて亡くなられた方のご冥福をお祈りし、被災されたすべての皆様方にお見舞いを申し上げる次第です。

震災発生直後から、テレビ・ラジオはそれぞれ取材活動、そして適切な情報提供に全力で取り組んできました。こうした災害時において、メディアと呼ばれる仕事がいかに重要な役割を担っているかを、改めて認識する毎日でした。特にラジオは、これまでも災害時において、極めて重要なメディアであると言われてきましたが、確かにテレビや新聞とはまた異なった存在価値があることを、私自身も強く実感しましたし、リスナーの皆様からも大変多くの反響を頂戴しました。

ラジオは生放送中に、一人一人のリスナーから大変貴重な情報や、心のこもったメッセージが寄せられます。この度の震災発生後も膨大な数のリスナーの声が TBS ラジオに寄せられました。そしてそれらは改めて「ラジオ」という場を通して、即座に多くのリスナーへ伝えられていきました。とかく「ラジオは人と人とを繋ぐメディアである」と言われますが、まさにその特性を、我々ラジオで働く人間と、リスナーの皆様が共有していることを強く実感しました。この度 TBS ラジオに入社された 3 人の皆さんとも、こうした実感を共有しつつ、一緒に仕事ができる日が来ることを本当に楽しみにしています。

テレビにはテレビ、ラジオにはラジオ、それぞれやりがいもあると同時に責任も重い、しかし一生を賭けるに相応しい素晴らしい仕事がいっぱいあります。今回の大震災の打撃に対し、国を挙げて国民全員で再興に向かって取り組むことになるとと思いますが、我々放送局にもその一助となる使命と力があります。決して焦ることはありませんが、基本をしっかりと学んだ上で、皆さんも大いに力を発揮してほしいと期待しています。皆さんの健闘を心からお祈りしてご挨拶いたします。頑張ってください。